

令和5年度学校評価報告書

令和6年(2024年)3月22日

北海道教育委員会教育長 様

北海道斜里高等学校長

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 1 主体的に学び、考え、他者と協働しながら行動する力を身に付けさせる。
- 2 キャリア選択に必要な能力を身に付けさせる。
- 3 生命を尊重し、健やかな心身を鍛える力を身に付けさせる。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	1 基礎学力の育成について教員は概ね肯定的。保護者の肯定的回答も増加。 2 家庭学習の習慣化には課題を感じているが前年度よりも改善。保護者の否定的回答も減少。 3 思考力・表現力の育成については、授業をととして生徒自身が考え、表現する多様な取組が為されており、概ね肯定的回答。 4 シラバスの活用については、観点別の評価方法を生徒が理解した上で学習を進めることができるよう、生徒による授業改善アンケートを活用し不断の改善を図る。 5 各教科において地域の資源を活かしたカリキュラム編成が意識されている。 6 地域の資源を活かした教育活動を展開しているが、「ユネスコスクール」としての意識化を推進する必要がある。 7 一人一台端末の活用が進み、肯定的回答が増加。	・地域の特色を活かした教育が推進されていることを強く感じた。 ・生徒が主体敵意に学ぶための手立てが具体になるとよい。 ・学ぶ意義を生徒が理解できるよう努力が必要。 ・個別のスタディサブリ活用を更に願う。進学指導への活用をもっと考えてはどうか。 ・スタディサブリの活用に向けて、朝学習を通じて習慣化を図った点が評価できる。 ・ゼミの充実から、地域への理解が深まっていると感じる。
改善方策	スタディサブリでの朝学習・課題配信で一定の成果があることから、「やらされる」のではなく、主体的に学ぶ姿勢を育めるよう、学ぶ意義を伝える工夫・改善を図る。	
生徒指導	1 身だしなみ指導について保護者の回答は前年度並み。教員は否定的回答が増加。 2 一部否定的回答があり、生徒の問題行動を防止する指導を深める必要がある。 3 ホームルーム担任やスクールカウンセラーによる面談により相談しやすい雰囲気づくりが為されている。 4 学校行事の充実等により生徒間の仲間づくりに対して肯定的な回答が多い。 5 「いじめは絶対に許されない」との回答は85%であり、100%を目指して粘り強く指導する必要がある。 6 生徒会活動や部活動に所属する生徒の肯定的回答は高いことから、部活動等への加入を更に促す必要がある。	・ICTを活用した生徒が相談しやすい環境づくりが推進されている。 ・新しい部活動の検討。 ・介護福祉へのボランティア活動も考えていただきたい。従前は、積極的に行っていたと聞いている。 ・外部専門家を招いてのいじめ対策はとても良いと思う。 ・サポート委員会も評価する。 ・生徒の主体性を伸ばす取組について継続していただきたい。
改善方策	今年度、具体的禁止事項を並べる校則から、あるべき姿を考える校則へ改定。見えにくくなった指導のラインを整理・再編を図る。	

進路指導	1 科目選択ガイダンスの一層の充実が必要である。 2 生徒のキャリア支援について、スタディサプリの活用により教員も保護者も肯定的回答が増加。 3 定番の講演会や相談会のほか地域人材との協働により生徒の進路意識の高まりが見られる。 4 生徒の自己理解に基づく進路目標の早期設定に係る指導の充実を図る。 5 勤労観・職業観の育成及び就職指導、進路情報の提供については肯定的回答が多い。	・地域との連携が工夫されており、充実した取組が見られる。 ・進学指導の強化に向けてスタディサプリアや各種模試により実力アップを図ってほしい。 ・進学、就労に各企業や自治体からの助成事業があると思うので、広く情報を集め、活用を図っていただきたい。 ・生徒の希望を叶える指導がされている。
改善方策	引き続き、「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」における探究活動の充実を図るとともに、スタディサプリアを進学対策、検定対策ツールとしても有効活用していく。	
公表方法	本校ホームページ上で公開するとともに、学校運営協議会の委員やPTA役員、斜里町教育委員会等に配付する。	

3 添付資料

- (1) 令和5年度学校関係者評価書
- (2) 令和5年度学校評価アンケート集計結果

令和5年度 学校関係者評価書

学校名	北海道斜里高等学校	校長名	増 田 康 広	実施日	令和6年3月21日
-----	-----------	-----	---------	-----	-----------

1 学校教育目標

社会の変化に対応し、自らの能力で生き抜く力を育成

2 本年度の重点目標

- 主体的に学び、考え、他者と協働しながら行動する力を身につけさせる
- キャリア選択に必要な能力を身につけさせる
- 生命を尊重し、健やかな心身を鍛える力を身につけさせる

3 自己評価結果

項 目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	自己評価	改善の方策	評価
【学習指導】 主体的かつ協働的な学びの促進	①学習意欲の喚起・学習の習慣化の促進	基礎学力の向上にむけた学習指導	3.1	B	スタディサプリでの朝学習・課題配信で一定の成果。「やらされる」のではなく、主体的に学ぶ姿勢を育めるよう、学ぶ意義を伝えていく。	B
		家庭学習の習慣化にむけた学習指導	2.5			
	②授業改善の推進	思考力・表現力の育成にむけた指導の工夫・改善	3.0	B		
		シラバス、授業評価、校内・校外研修等による授業改善	2.9			
③総合学科機能の充実	総合学科（単位制）や地域の特色を活かしたカリキュラムの編成・実施	3.4	B			
評価者の意見等	・地域の特色を活かした教育が推進されていることを強く感じた。 ・生徒が主体的に学ぶための手立てが具体になるとよい。 ・学ぶ意義を生徒が理解できるよう努力が必要。 ・個別のスタディサプリ活用を更に願う。進学指導への活用をもっと考えてはどうか。 ・スタディサプリの活用に向けて、朝学習を通じて習慣化を図った点が評価できる。 ・ゼミの充実から、地域への理解が深まっていると感じる。					
【生徒指導】 規範意識・社会性の育成	④基本的生活習慣の確立	頭髮・身だしなみなど、基本的生活習慣の確立に向けた指導	2.5	C	今年度、具体的禁止事項を並べる校則から、あるべき姿を考える校則へ改定。見えにくくなった指導のラインを整理していく。	B
	⑤思いやり意識の高揚	仲間意識の醸成などいじめの未然防止に向けた取組	3.0	B		
		生徒が相談しやすい環境の整備	3.3			
	⑥規範意識の涵養	社会規範を遵守し、問題行動を未然に防ぐ指導	2.9	B		
	⑦自治意識の涵養	生徒会・部活動・ボランティア活動の充実	2.6	B		
評価者の意見等	・ICTを活用した生徒が相談しやすい環境づくりが推進されている。 ・新しい部活動の検討。 ・介護福祉へのボランティア活動も考えていただきたい。従前は、積極的に行っていたと聞いている。 ・外部専門家を招いてのいじめ対策はとても良いと思う。 ・サポート委員会も評価する。 ・生徒の主体性を伸ばす取組について継続していただきたい。					
【進路指導】 キャリア選択能力の育成	⑪キャリア教育の充実	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」などによる進路意識の育成	3.4	B	引き続き、「産社」「総探」での進路探究活動を充実させていく。スタディサプリを進学対策、検定対策ツールとして有効活用していく。	B
		進路実現に向けた科目選択ガイダンス・個別指導の充実	2.9	B		
	⑬進学指導の強化	講習・スタディサプリ、各種模試、検定等の受験による意識向上・実力養成	3.1	B		
	⑭就職指導の強化	関係機関と連携した就職指導の強化・連携	3.1	B		
	⑮情報提供の充実	生徒・保護者への進路情報の提供	2.9	B		
	評価者の意見等	・地域との連携が工夫されており、充実した取組が見られる。 ・進学指導の強化に向けてスタディサプリや各種模試により実力アップを図ってほしい。 ・進学、就労に各企業や自治体からの助成事業があると思うので、広く情報を集め、活用を図っていただきたい。 ・生徒の希望を叶える指導がされている。				